

2022 年度(第 6 回)「自由を生き抜く実践知大賞」 エントリー 一覧 実践事例概要

*No.は実践事例名称の五十音順

NO.	実践事例名称	実践主体	実践事例概要
1	目黒区ミライ会議	目黒区商店街連合会	目黒区ミライ会議とは目黒区商店街連合会が若手育成事業として実施している商店街プロモーション企画である。商店街の活性化と商店街組織の強化を目的として商店街連合会×教育機関×目黒区の産学官連携で 2019 年から活動している。 主な成果は地域(目黒区内)の高校 8 校の意欲ある学生と共に行った、目黒区の魅力発信を目的とした CM 制作企画 中高生主体による目黒区商店街プロモーションを目的とした SNS 運用の企画 目黒区のデジタル改革を目的としたデジタル商品券の開発 専用アプリの開発、運用 地域の高校生が携わった伝統イベントの実施 デジタル商品券を活用した企画
2	法政水新ラベルデザイン、販売、宣伝、広告	法政水リデザイン委員会	法政水リデザイン委員会とは法政水ラベルを新デザインとすべく集まった有志の学生団体です。新ラベルデザインを開発し、法政大学の発展に寄与します。2021 年 8 月からミーティングとデザインのブラッシュアップを繰り返し、「法政水」がどういう存在でありたいか、ラベルデザインで何を伝えたいか等、法政大学憲章を読んでテーマ決めを行いました。 法政大学憲章を表記した新ラベルの法政水が、発売、配布、宣伝、広告されることが、法政大学のブランディング推進に貢献します。具体的には、本活動は、学年や研究室の枠を超えて集まった有志の学生による、与えられた課題ではない自由な取り組みであり、学びを活かし自主的に活動する学生の気風と、その活動を認め、後押しする教員と、それを理解して協力する子会社を持つ法政大学であるからこそ成し遂げられたことです。 また、新ラベルの法政水が発売、配布、宣伝、広告されることは、より多くの受験生および社会に、法政大学憲章の精神を発信・共有することに繋がり、法政大学のブランドを一層高めます。
3	大学生生活全般に関する相談窓口の実践	「先輩学生による相談窓口」スタッフ	社会学部において、相談者(主に新入生)が充実したキャンパスライフを送れるよう、社会学部の先輩学生による相談窓口を実践しました。時間割の組み方、大学生生活などをはじめとする 262 件もの相談に対応し、相談者の不安を解消しました。
4	「いつでも、どこでも、法政大学」	学生会サークル 市ヶ谷パッションズ	1 実践事例概要 市ヶ谷パッションズが進歩した3つの実践知 ・オンライン活動の進歩(繋がる・集う・実践知、各チーム活動での学びと交流)、及びリアル対面での交流の実現 ・通信教育部事務局との連携 ・「パッションズの窓」による先生や卒業生との交流 (詳細については添付資料 1 実践事例概要～8パッションズの窓を参照願います。) 2 活動期間中の成果 2-1 量的効果 ①卒業生の輩出 2021 年度 17 名 2022 年度予定 25 名 設立時からの累計 73 名予定 ②ZoomLive 開催による交流の機会創出 2021 年度 272 回 2022 年 9 月現在 164 回 ③市ヶ谷パッションズのデータ 参加人数 2022 年 9 月時点 267 名(全国縦断の活動で参加者エリアは全国に及ぶ) ④Slack 投稿件数 6.9 万件(運用開始からまる 2 年経過) (詳細は添付資料 3 市ヶ谷パッションズの成果を参照願います。) 2-2 質的効果 コロナ禍で行動が制限される中、オンラインを利用した集いのバリエーションを充実させて様々な繋がり・集い・実践知による交流が図れた。また生パッション部の活動によりリアルな交流が実現できた。 (詳細は添付資料 3 市ヶ谷パッションズの成果及び、6 生パッション部の活動成果報告、8 パッションズの窓を参照願います。)
5	大学生による世代間キャリア教育の推進活動	NPO 団体 forGenerations	学生 NPO 団体 for Generations は、都内大学生 10 余名が昨年 10 月に立ち上げた新世代の「キャリア支援事業」を手掛ける学生 NPO 団体です。私たちは、【共に「未熟」だからこそ、共に「育つ」ことが出来る】を基軸に、新しい世代間キャリア”共”育のかたちを皆様と創っていきます。 ●解決したい社会課題: 「子どもの精神的幸福度が 37 位/主要 38 か国中(レポートカード 16.2020)」 「人生選択の不自由さ」 「子どもたちの学校への帰属意識」 ●Mission: 多世代との交流により社会的連携力を豊かにし、身体的、精神的、社会的健康の促進を図る ●Vision: 子どもの精神的幸福度の向上、こどもたちをはじめとする「みんなのみらいを明るく」 ●Value: 新しいキャリア”共”育の実現とウェルビーイング

6	産学官連携による情報環境整備スキーム構築	法政大学地域研究センター	法政大学地域研究センターは静岡市や浜松市と組み、防災情報を駅などの貸しモバイルバッテリースタンドの画面に配信する実証実験を9月から始める。静岡鉄道や静岡県セイブ自動車学校(浜松市)などとスタンドを設置し避難所情報などを届けつつ、災害時のスマートフォンの充電などへの活用も促す。費用は広告料金などでまかなう持続可能な仕組みを作る。
7	オンラインでの音痴悪症当事者活動の実践	日本ミソフォニア協会	オンライン上で音痴悪症という障害の当事者活動を実践しました。例えば、zoomでの当事者交流会の開催や公式LINEを使っての相談支援を実践しています。また、メディアへの取材協力や自作したホームページでの情報発信などを行っています。
8	オンデマンド学科紹介	文学部心理学科	百周年を迎えた文学部では、オンラインで記念行事を行う予定である。記念行事に備え、文学部の各学科は、学科紹介の動画を作成した。心理学科では、その際に作成した動画を転用し、学科紹介に用いることとした。なお、動画に登場する方々から、動画を転用することについて同意を得ている。 動画は、以下の3つである。(1)今の法政心理(1年生対象の2つの授業とピアサポーターの紹介など)、(2)実験室ツアー(心理学科で利用できる実験機器とその使い方の解説)、(3)卒業生から(心理学科での学びを活かして活動している様子の紹介)。 これらの動画は、心理学科内にとどまらず、YouTubeにアップロードすることによって広く公開される。心理学科の在学生・卒業生のみならず、心理学科に関心のある受験生やその保護者に対しても、強い訴求力があると考えている。
9	国際文化情報学会(発表大会)	国際文化学部・国際文化研究科(共同)	国際文化情報学会は、国際文化学部と大学院国際文化研究科の教員・学生で作る学会で、毎年11月下旬から12月初旬に発表会を開催している。講義や演習などを通じて得た知見や経験を生かした研究、創作の発表の場であり、学部と研究科が合同で学びを共有し、互いにフィードバックを提供する機会になっている。また特徴のひとつは論文やポスターによる研究発表だけでなく、映像部門やインスタレーション部門など表象系の発表も実施している点である。演習も卒論も必修ではない国際文化学部生にとっては、単位のためというよりは、「異なる見方・考え方」に触れる実践知の場として捉えられる機会である。
10	ゼミのzineを作ろう 研究成果を外部に	国際文化学部 深谷ゼミ	本ゼミで行っている研究活動の成果を、ゼミ内・学内に閉じ込めておくだけでなく、広く社会に共有したいとの思いから、zine(ジン)の制作を行っている。zineとは個人が制作する雑誌のことであり、商業的なmagazineと異なるその発行形態は、全てが経済的な利益中心で動く大衆消費社会への問題提起としての意味をもつ。コロナ禍により様々な活動がオンライン上で行われるようになってきているが、紙媒体の発行形態にこだわることで、研究活動・成果を、温もりをもって一般の方々に伝えられれば、との意図に基づく実践である。 本ゼミでは「映画からみる社会」をテーマに研究活動や映像制作を行っている。2021年度は、ゼミで検証した映画作品の紹介、映像制作の活動記録、校外学習の成果、ゼミ論・卒論の概要一覧などをコンテンツとしながら、所属学生たちが誌面の一部をデザインし、第1号として制作した。2022年3月に発行した第1号は、学外で開催されたzineフェスティバルで50部配布し(無料)、一般市民の方々にゼミの研究活動を共有することができた。2022年度秋現在、第2号の制作を開始したところである。
11	古代から現代まで続く、歩きお遍路の実践	文学部史学科	日本古代史から現在まで残るお遍路という文化を自分も実際に歩くことで、机上の学問だけでは得られない体験ができた。具体的には四国にある空海ゆかりの88ヶ所の寺を全て歩きで回った。88ヶ所の寺の距離は約1200kmであり、それを7/28-8/30の34日間かけて歩いた。その際に必要だった資金は全て自分でアルバイトをすることで捻出した。歩いている途中では、「お接待」と呼ばれるお遍路の独特な文化に大変お世話になった。お接待とは現地の方々からのご厚意であり、食事を分けていただいたり、時には泊めていただいたこともあった。 橋から落ちたこと、野良犬に追いかけられたことなど何度も危険な目にあっただが、過去の人々も同じように苦労し、お遍路という修行の中に何かを見出そうとしたのではないかと自分も歩きながら考えるに至った。そういった、普通の学校生活では味わえない貴重な文化や体験を経験することができた。